

事業計画書

1 事業名称	地域インターンシップ世田谷「世田谷で街なか留学」
2 協働事業の内容及び実施方法 (1) 事業の目的 (2) 事業の内容 * 実施体制や実施手法を含めて記入すること。	<p>学生が地域に関わる機会を増やし 地域で活躍できる場をコーディネートすることで 地域を担い支える人材が育つプラットフォームをつくる</p> <p>世田谷のまちにはたくさんの大学や専門学校などがあり、毎年、多くの学生が通っているが、学生の多くは「世田谷のまち」に関わりを持たないまま卒業を迎える。学生からは、まちに関わりたいが、入口がわかりづらいとの声が上がっている。一方、世田谷のまちには多くの地域団体などが活動しているが、そこからは、若者と関わる機会がない、若い担い手がいないと囁きが聞こえてくる。</p> <p>「地域インターンシップ世田谷」は、世田谷のまちに住み、通い、通り、使い、興味を持っている学生に、「世田谷のまち」をもっと身近に感じてもらい、ファンになってもらうことを目的にした事業である。</p> <p>この事業を効果的に行うことにより、世田谷のまちを「地元」のように思い、世田谷のまちに関わる若者を増やし、世田谷のまちの将来の担い手が増えることを狙う。</p> <p>■事業の内容 世田谷のまちで活動する地域団体などに、大学生を中心としたインターン生を派遣するコーディネートを行う。派遣期間終了後、インターン生による主に学生向けの団体見学企画を行う。これらを通して、世田谷のまちへの継続的な関わりを構築する。</p> <p>■実施体制 事業を実施する地域インターンシップ世田谷実行委員会は、世田谷のまちの地域団体などをよく知る【世田谷コミュニティ財団】、学生の派遣コーディネートの知見をもつ、【CFF ジャパン】・【NPO インターンシップラボ】をはじめ、受入れプログラムを提供する【地域団体など】、インターン卒業生などを中心とした【学生・若者】で組織し、知見の共有・負担の分散をしながら進める。</p> <p>■実施手法</p> <p>①受入れプログラムの収集とコーディネート 大学などを通して募集した応募学生の希望や興味を確認し、地域団体などから集めた「受入れプログラム」を提示しながら、応募学生・受入れ団体双方の希望に沿ったコーディネートを行い、応募学生をインターン生として受入れ団体に派遣する。 (団体：10 団体程度、学生：20 人程度を想定)</p> <p>②プログラム期間中のサポート プログラム期間中、インターン卒業生やインターンの運営に興味のある若者とともに、インターン生・受入れ団体からの相談の対応、受入れ団体同士の情報交換の場づくり、インターン生によるプログラム活動のウェブ発信のサポートなどを行う。</p> <p>③団体見学企画の実施 プログラム期間中及び終了後、インターン生が受入れ団体を紹介する「団体見学企画」を考える作戦会議を実施。インターン生が自身の友人をはじめ、家族など身近な人を想定した団体を見学する企画の立案・運営を促す。「団体見学企画」は広く参加者を募り、多くの人々に団体を知ってもらう機会になることも狙う。</p> <p>④継続的な関係性の構築 上記、②・③などを通し、翌年以降、インターン卒業生が本事業の支援者になる為の仕組みづくりやコーディネートを行い、世田谷のまちへの継続的な関わりを構築する。</p>
(3) 令和5年度事業完了予定日	令和 6 年 2 月 29 日

3 協働の必要性及び役割分担	(1) 区の担当課	子ども・若者部 子ども・若者支援課							
	(2) 協働する意義・必要性	<p>■若者の地域での交流と活動参画を拡大する</p> <p>本事業は、「世田谷区未来つながるプラン」の「分野別計画等における主な取組み」にある「若者の交流と活動の推進」とも合致する事業である。「世田谷区未来つながるプラン」にある「若者自らの主体的な活動を通じて、自立と成長を促し、若者たちが地域や社会とつながり、世代を超えた出会いや交流の機会を創出することにより、社会への参加・参画意識を高め、交流と活動を広げる機会を充実」部分を補完・拡大する事業であることから、実行委員会のみならず、区にとっても協働する意義が非常に大きい事業である。</p> <p>■公共的な視点をもつ若い担い手を増やす</p> <p>本事業は、公共性の高い仕事に関心がある学生が参加することが多い。協働で事業を実施することにより、このような関心を持つインターン生に受入れ団体の視点だけでなく、公共的な社会全体を意識した視点でのまちも知ってもらう機会を提供することができるようになる。</p> <p>公共的な視点をもつ若者が世田谷に増えることは、本事業の目的である将来の世田谷の「まちの担い手」を増やすことにもつながることから、世田谷区と協働で実施する意義は非常に高い。</p> <p>■関係者からの事業への信頼性が向上する</p> <p>本事業は、社会に出る直前の学生を対象としていることもあり、公益性の高い安全な事業であることが重要であるが、受け手にとってはその判断が難しい。世田谷区は、既に、子ども・若者支援課を中心に若者向けの施策や様々なプロジェクトを展開しており、多数の若者の参画実績を持つ。</p> <p>世田谷区と協働することで、本事業がこれまでの区の施策やプロジェクト同様に公益性の高い事業であることを示すことができ、円滑に事業を行うことができる可能性が高くなる。このような観点からも本事業における協働の必要性は非常に高い。</p>							
	(3) 役割分担	提案団体	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の企画・運営全般 ・事業周知・広報 ・インターン生のコーディネート・サポート ・受入れ団体のコーディネート・サポート ・情報発信 						
		区担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の企画・運営のサポートとアドバイス ・事業周知・広報のサポートとアドバイス ・インターン生への世田谷についての講師・公共的視点からのアドバイス ・世田谷区における若者の状況や施策についての情報提供 ・行政の内部調整 						
(4) 地域の団体との連携	<p>本事業は、下記の受入れ団体をはじめとする区内地域で活動するNPOや市民活動団体などと連携して行う。また、商・工・農などの民間が組織する地域組織や団体との連携も模索する。</p> <p><受入れ団体></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">①岡さんのいえTOMO</td> <td style="width: 50%;">②一般社団法人おやまちプロジェクト</td> </tr> <tr> <td>③NPO 人せたがや子育てネット</td> <td>④放課後等デイサービス 凸凹 Kids すぺいす</td> </tr> <tr> <td>⑤NPO 法人 neomura</td> <td>⑥ハーモニー (就労継続支援施設)</td> </tr> <tr> <td>⑦羽根木プレーパーク</td> <td>⑧100人の本屋さん</td> </tr> </table>	①岡さんのいえTOMO	②一般社団法人おやまちプロジェクト	③NPO 人せたがや子育てネット	④放課後等デイサービス 凸凹 Kids すぺいす	⑤NPO 法人 neomura	⑥ハーモニー (就労継続支援施設)	⑦羽根木プレーパーク	⑧100人の本屋さん
①岡さんのいえTOMO	②一般社団法人おやまちプロジェクト								
③NPO 人せたがや子育てネット	④放課後等デイサービス 凸凹 Kids すぺいす								
⑤NPO 法人 neomura	⑥ハーモニー (就労継続支援施設)								
⑦羽根木プレーパーク	⑧100人の本屋さん								

4 協働の成果・効果	<p>(1)期待される具体的な成果や区民・地域への波及効果及びその測定方法</p>	<p>(団 体)</p> <p>■若者の地域での交流と活動参画の拡大：アンケート・統計による測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで地域に縁が薄かった学生が世田谷に愛着を持つようになる：愛着度向上 ・インターン生が地域活動などの担い手となる：プログラム以降の活動参加率 ・インターン卒業生が本事業の支援者となる：プログラム以降の支援活動参加率 <p>■信頼性の向上による協力機関・団体の増加：統計による測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの関係機関が事業に協力する：協力機関数 ・より多くの地域団体などが事業に協力する：協力地域団体数 <p>■公共的な視点をもつ若い担い手の増加：アンケート・統計・複数評価による測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体を意識した視点でまちをみる学生が増える：公共への理解の有無 ・区の他の事業へ関わる学生が増える：活動参加率 ・インターン生が企画する団体紹介企画に公共の視点が入る：公共の視点の有無 <p>※複数評価は、区担当者にも協力を仰ぎ、それぞれの視点での複数人の評価をとりまとめる</p>
	<p>(2)事業の成果の活用方法、将来の展開</p>	<p>(区担当課)</p> <p>地域活動に興味を持つが参加の方法を知らない学生が、区の媒体を活用して周知・PRすることにより、活動の場を知ることができる機会が増える。また、参加する学生や若者が増えることで、地域が抱える課題を学生の目線で発見し、課題解決に向けて区とともに取り組むことが可能となる。学生や若者が愛着を持って地域活動に加わることで、地域の活性化につながり、イベントなどに参加した区民の満足度向上が期待できる。</p> <p>(団 体)</p> <p>■若者交流と活動の推進の拡大</p> <p>インターン生がインターンシップの支援者になることで事業の持続可能性を高め、事業を定着させる。更に事業を継続することで、インターン卒業生の先輩・後輩同士が教え合う・支え合うような自然発生的なコミュニティ形成も期待したい。</p> <p>■協力者や支援の拡大</p> <p>協働を通して培った世田谷の学生や大学とのつながりや関係機関・団体とのつながりを大切にして継続することにより、毎年多数の学生が趣旨を理解したうえでのインターンシップへのエントリーを促進する。また、事業への運営・資金・場などの支援者を獲得し、事業の持続可能性を高めたい。</p> <p>(区担当課)</p> <p>地域社会の未来の担い手である若者を発掘し育てることができる。これらの人材が地域活動を経験し、新たなつながりが生まれることで、地域を支えるネットワークが広がり、新たな事業展開につながることも期待できる。さらに、本事業が継続していくことで、地域活動を経験した若者が地域に根付き、その姿をロールモデルとし、地域の子どもたちが活動に参加する好循環が生まれる土壌をつくることで、地域が活性化することも期待できる。</p>
5 その他	<p>*提案する事業と関連する団体の特徴、専門性、実績、提案、事業実施に向けたアピールなど</p> <p>地域活動やNPOへのインターンシッププログラムは全国各地で行われているが、行政と協働で事業を行うことは珍しく、本事業はインターンシッププログラムとしても先進事例となるプログラムである。</p> <p>昨年度の実施を通して、受入れ団体も単に学生の受け入れだけでなく、「若者と地域をつなぐプラットフォーム」としての実行委員会への参加に関心を表明してくれているほか、複数の大学の先生も興味を示してくれた。将来的には、団体や大学なども巻き込んだ公共的なインフラとして機能させていくことを目指し、区民がお金を出し合って学生の成長を支えるプラットフォームとしたい。</p>	

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体は、次のページもご記入ください。

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみご記入ください。

<p>6 昨年度の世田谷区提案型協働事業の効果など</p>	<p>(1) 昨年度の協働事業の効果・実績</p>	<p>■協働に関する評価 インターンシッププログラムはさまざまな学生や団体を巻き込んでいく事業であるが、区との協働事業であることで事業としての信頼性が高まり、団体へのインターン受け入れ依頼、学生への広報等がしやすくなった。特に公的な仕事に関心がある学生がインターンに参加することが多く、参加した学生にとって区の職員から話を聞けることが大きかった。</p> <p>■事業に関する評価 メインのプログラム（短期インターン）のスケジュールや内容・規模はおおむね計画通りに進められた。一方で、プラスアルファで考えていた長期インターンやクラウドファンディングについては、計画不足もあり、思ったようには進捗しなかった。 16名の若者が世田谷の地域の活動に出会い、インターンとして団体のスタッフとともに経験を積み成長できる場をつくった。10団体がインターンを受け入れ、若者が活躍できる場をつくとともに活動の活性化につなげることができた。</p> <p>■事業の成果の活用方法や将来の展開について インターン活動の様子や実績を見える化し、インターン卒業生のコミュニティ化も図ることで、新しく学生がインターンに参加しやすく活動しやすくする。 受入れ団体と大学教員有志等のコミュニティもつくり、活動の基盤強化と支援者の増加へつなげていく。</p>
	<p>(2) 昨年度の事業内容と比較して、新しい点や工夫した点など</p>	<p>■学生と団体のマッチング改善と理解促進 昨年度はマッチング会のみでの学生と団体のマッチングだったため、お互いの情報共有が不足し活動に対する認識の齟齬がやや見られた。そこで、今年度は事前に団体ごとのインターン募集要項の提示などをする。またインターン期間終了後に複数の団体を見て回れる機会を学生主体で企画する。これにより、学生が地域のさまざまな団体の現場を体感できるようにするとともに、学生が主体的に企画に関われる機会とする。 また、終了後のヒアリングより、団体の活動拠点に通いやすい学生の方が終了後の継続的な交流に発展しやすいことから、区や先生などを通じて区内大学との連携強化を行い、推薦やクチコミなどを通じて学生への広報経路拡大を図る。</p> <p>■区との連携強化 昨年度は既に企画が固まった段階で協働事業を開始したことから、企画段階からの参画が難しい状況であった。今年度は密接な情報共有に基づいて常に協働での事業企画を実施する。また、昨年度に発見したニーズを踏まえて、「区役所ツアー」等の企画を形にしていき、若者が区政を身近に感じる機会を作る。</p> <p>■事務局体制の強化 昨年度は事務局スタッフが所属団体の事業との兼任であったため、想定した計画通りに動けないことがあった。そこで、実行委員会としての専任スタッフを1名置くことで、日常的な調整や連絡などを一元化するなどして事務局機能の強化を図ることとする。</p>
	<p>(3) 協働事業を継続する理由</p>	<p>昨年度は協働事業初年度として、本格的に地域へのインターンシッププログラムを実施することができた。今年度も協働事業を継続したい理由は2つある。 1つは、昨年度事業を実施する中で、インターンシップに応募する学生が世田谷区の行政に対する興味・関心が高いことが分かった。これを活かして若者が区政を身近に感じられるような企画を実施していく。 もう1つ、将来的にこの事業は、広く関係機関の協力や区民の寄付を集め、自立的に運営できるプラットフォームを目指していきたい。そのためには、昨年度のように学生と地域の団体とを一通りマッチングする段階から、さらに継続的に関係性の構築やコミュニティの醸成が必要であるが、その期間に区がかかわる信頼性が重要となってくる。</p>

事業実施スケジュール

※適宜、罫線を入れるなどして見やすいように作成してください。

時期	内容
<5月> 5月後半～ 6月末まで	<ul style="list-style-type: none">・大学などの教育機関に協力を依頼する・受入れ団体から受け入れプログラムの提案を集め、受入れ団体を確定させる
<6月>	<ul style="list-style-type: none">・ウェブサイトやSNSなどを通じて、また大学教員を通して、インターンに応募する学生を募集する・学生向けの説明会を開催する（オンライン）
<7月>	<ul style="list-style-type: none">・応募学生からのエントリーシートの提出を受けて、正式に団体とマッチングする（必要に応じて個別に団体と学生の面談をコーディネートする）・学生（インターン生）と団体の顔合わせ会を開催する
<8月～9月>	<ul style="list-style-type: none">・主なインターン活動期間※毎月1回程度、作戦会議（交流会）を開催する※インターン生による情報発信を行う
<11月> 下旬	<ul style="list-style-type: none">・インターン生による団体見学企画を実施する
<12月～2月>	<ul style="list-style-type: none">・引き続きインターンを続ける学生のフォローアップや受入れ団体のサポートを行う※団体のイベント等の情報提供を行う・次年度に向けた振り返りや企画を行う
<2月> 2/29	<ul style="list-style-type: none">・報告書を提出する

[令和5年度提案型協働事業 様式]

事業収支予算書

【収入】

費目・内容	金額 (円)	積算内訳
補助金	500,000	
参加費 (インターンシップ生より)	20,000	参加費1,000円×20名
寄付金	200,000	
合計	720,000	

【支出】

費目・内容		金額 (円)		積算内訳
		事業予算額	うち補助金申請額	
人件費	コーディネーター費	480,000	420,000	コーディネーター1名：6万円×8ヶ月 (うち7ヶ月分を充当)
	[小計]	480,000	420,000	
報償費	受け入れ団体謝礼	80,000	80,000	受け入れ団体8団体×1万円
	[小計]	80,000	80,000	
消耗品・備品費	文具等	30,000	0	
	[小計]	30,000	0	
複写・印刷費	チラシ代	4,000	0	チラシ印刷費@10円×400部 配布資料等コピー費@10円×400枚 最終報告書印刷費@100×100部
	コピー代	4,000	0	
	最終報告書	10,000	0	
	[小計]	18,000	0	
郵送・広告・保険料	保険料	9,310	0	ボランティア保険350円×20名 イベント保険33円×35人×2日 団体へ資料送付@370円×8団体×2回
	郵送料	5,920	0	
	[小計]	15,230	0	
使用料・賃借料	会場費	90,000	0	学生会議会場費4回分、最終報告会会場費
	サーバー代	5,000	0	
	[小計]	95,000	0	
交通費				
	[小計]	970	0	
その他	支払手数料	800	0	保険料支払い手数料@200円×4件
			0	
			0	
	[小計]	800	0	
合計		720,000	500,000	

☆この事業収支予算書は、今回提案する事業に要する予算を記入するものです。団体の年間予算を書くものではありません。

☆日常の運営経費（団体等の日常運営の人件費、事務所賃借料、光熱水費、日常運営に要する消耗品・備品費等）は対象外です。

団体の概要

団体名	地域インターンシップ世田谷実行委員会			
所在地	東京都世田谷区		電話番号	
			FAX	
代表者氏名	市川 徹		役職	代表
事業責任者 ※住所、電話番号・ FAX、Eメールは 公開しません。	氏名	橋 たか		役職 事務局
	住所			
	電話番号			
	FAX			
	Eメール			
設立年月 (活動開始年月)	令和3年4月(特定非営利活動法人設立: 年 月)			
役員等の構成 及び社員数 (会員数)	12人			
主な活動分野	(1) 世田谷区内の地域で活動している団体へのインターンシップに関する活動 (2) 世田谷区内の地域を担い支える人材が育つプラットフォームに関する活動			
主な活動実績 *行政との協働 の実績を含む。	<p>■2021年度</p> <p>「公益信託オラクル有志の会ボランティア基金」の助成を受け、一般社団法人世田谷コミュニティ財団・NPO 法人アクションポート横浜(NPO インターンシップラボ)・NPO 法人 CFF ジャパンなどとともに、「地域インターンシップ in 世田谷」設立プロジェクトを実施。</p> <p>世田谷区内で学生などの若者が、地域の団体や活動にかかわるきっかけとなる「NPO インターンシッププログラム」に向けてトライアルでのインターンシップを実施した。</p> <p>■2022年度</p> <p>「世田谷区提案型協働事業」の補助を受けた NPO 法人 CFF ジャパンと密接な協力のもとで、世田谷区と協働で「地域インターンシップ世田谷」を本格実施。応募のあった学生 16 人を世田谷区内の 10 の活動団体にマッチングした。</p>			
団体の ホームページ	https://internship-setagaya.net			

選定委員からの意見

事業名：地域インターンシップ世田谷「世田谷で街なか留学」

- 昨年度までの提案団体や受け入れ団体の経験の積み重ね、あるいは事務局体制の強化により、本事業の目的にある若者が地域にかかわる機会の提供と「ファン」の創出、引いては地域を支える担い手の育成のためのプラットフォームの構築に向けた事業の実施が期待できる。
- 今年度の方針である受け入れ団体の質の確保を着実に進め、受け入れ団体の充実と、それによる学生への多様な選択肢の提供につなげてほしい。
- 協働事業として、子ども・若者支援の観点から、生きづらさを感じているような若者が、地域や社会とつながったり、それぞれの事情に応じた活躍の場を通して自己肯定感・自己有用性を高めたりするような取り組みも模索してほしい。
- 行政との協働による地域インターンシップ事業としての「世田谷モデル」の構築を期待したい。